

# 川上から川下までの幅広い関係者が連携した「南部あかまつ」をはじめとする地域材の普及促進に向けた取組

青森県 三八地域県民局地域農林水産部林業振興課 主幹 上野 和俊

## 1 はじめに

当管内のアカマツについては、管内の森林面積の1/3、県内の蓄積の約半分を占め、古くから「南部アカマツ」の産地として全国的に知られているが、建築様式の変化等により、外材にその市場を奪われ利用が低迷しており、アカマツ材の主な用途はチップとなっている。また、「南部アカマツ」をはじめとする地域材の認知度が一般の大工・工務店や消費者に対して低く、地域材の需要拡大が課題となっていた。

よって、管内に豊富に存在するアカマツに付加価値を付け、安価なチップ材主体から住宅部材利用への転換を図るとともに、地域材活用に取り組む工務店や公共建築物・一般木造住宅への普及促進を図るため、「森林所有者・森林組合・製材業・木材販売業・住宅産業・家を建てる会、NPO法人」等の関係者と連携して行った、各種取組について紹介する。

## 2 これまでの取組

准フォレスター（林業普及指導員）がコーディネーター役となり川上から川下までの関係者間の合意形成を図りながら、以下の取組を実施。

### (1) 住宅部材（構造材：主に梁・桁）としての製材品生産技術の開発（H21～22）

#### ① アカマツの青変（変色）抑制対策

春から夏に伐採された木は、青変菌による変色が発生するため、伐採時期が秋から冬に限定されていた。よって、年間を通じた製材品の安定供給を行うため、変色抑制対策を確立する必要があったことから、秋田県立大学木材高度加工研究所に研究委託を実施。

#### ② アカマツの乾燥特性の解明

割れや狂いの発生しにくい構造材生産のための乾燥技術を確立するため、秋田県立大学木材高度加工研究所に研究委託を実施。

### (2) 南部あかまつ活用研究会の設置（H23～24）

アカマツをはじめとする地域材を活用して、地域らしさのある住宅デザイン、魅力的な内装材製品をつくっていくため、森林組合、製材所、工務店、建築設計事務所、木工所、デザイナー等の関係者が参加して勉強会を開催。



【地域材のブランド化セミナー】

【事例集製作ワークショップ】

### (3) 公共施設及び一般住宅への地域材の普及促進

#### ① 地域のシンボルとなる木造公共施設等の整備

ア 三八地域県産材で家を建てる会の関係者と連携し、下記の公共施設の整備の際に地域材活用の働きかけを行った。(H23～)

- ・「八戸ポータルミュージアムはっち」の内装展示
- ・種差海岸インフォメーションセンター
- ・西白山台小学校(八戸市)



【八戸市への働きかけ】

イ 三八地域県産材で家を建てる会関係者と連携し、東日本大震災で被災したクロマツを活用したベンチを製作し、市内の主要施設へ寄贈(H24)



【JR八戸駅へ寄贈】



【八戸市役所へ寄贈】

#### ② 地域材を活用した住宅モデルの作成

東日本大震災被災者の住宅再建支援のため、被災者、市町村、八戸工業大学、森林組合、製材所、工務店、建築設計事務所と連携し「地域材活用復興モデル住宅研究会」を設置し、地域材を活用した復興住宅モデルの「検討、被災者への提案、PR」を行った。(H25)



【研究会での検討状況】



【地域材活用復興住宅セミナー】

#### ③ 「県産材フェア～森のめぐみ展～」の開催(H23～)

「八戸ポータルミュージアムはっち」を全館借り切り、市町村、森林組合、工務店、家を建てる会等と連携し、一般消費者の方々に、暮らしにつながる森林や木材への理解を深めてもらうため、「南部あかまつ」をはじめとする地域材と森づくりから木工・住まいづくりまでに関わる人々の取組をPRした。

#### ④ 地域材活用に取り組む工務店の普及拡大

ア 管内の工務店に対する戸別訪問(H25～H26)

地域材を活用する工務店の拡大を図るため、木材利用ポイント事業説明会に参加の工務店等を対象に戸別訪問を行い、「南部あかまつ」をはじめとする地域材活用の働きかけを行った。

## イ 地域材を活用できる大工技能者の育成（H26～）

地域材を活用できる経験豊富な技術者の数の減少及び高齢化が進展し、技能・技術の継承が困難になりつつあること、管内には、集成材等のエンジニアードウッドの工場がなく、地産地消の推進のためには、地域材を使用した製材品の需要拡大が必要なことから、一般に流通している地域材を使用した製材品（無垢材）を扱える大工・工務店の量的拡大を主な目的とし、NPO法人に委託して研修会を開催。



【仕口・継手の刻みの実習】



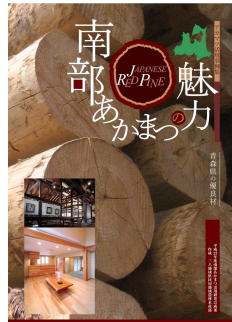
【金物を使わない小屋組み実習】

## 3 取り組みの結果

(1) 住宅部材（構造材：主に梁・桁）としての製材品生産技術の開発

- ① アカマツの青変（変色）抑制対策が確立され、通年生産が可能となった。
- ② アカマツの乾燥特性が明らかになったことから、良質な製材品を生産するための効率的な乾燥方法が確立された。

(2) 南部あかまつ活用研究会での検討結果を基に工務店及び一般消費者向けの販促ツールを作成した。



【南部あかまつ活用事例集】



【フローリング資材の実物サンプル帳】

(3) 公共施設整備及び一般住宅への地域材の普及促進

- ① 高い集客力が見込まれる公共施設で地域材を活用した整備を行ったことにより、管内の他町村の公共施設整備の際に高い波及効果が見込まれる。



【八戸ポータルミュージアムはっち H23】



【種差海岸インフォメーションセンター H26】



②「地域材活用復興モデル住宅研究会」でシニア向け、ファミリー向けの2タイプの住宅モデルを作成し、これらを被災者に提案して、自己資金で実際に建設してもらった。



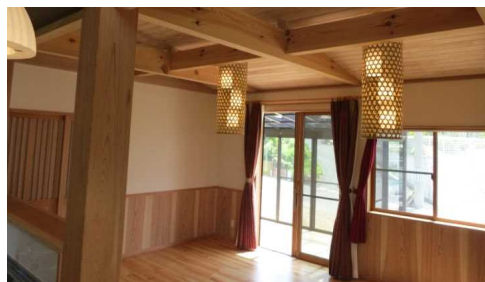
【ファミリータイプ 外観】



【ファミリータイプ 内部】



【シニアタイプ 外観】



【ファミリータイプ 内部】

③ 平成23年から「県産材フェア」を継続して開催してきたことにより、昨年度は2日間で7千人を超える入場者数となり、はっちのイベントでもトップレベルの集客力を誇るようになるとともに、一般消費者が地域材に関心を持つ機会を提供することができた。



【県産材フェアの開催状況】

(4) 地域材活用に取り組む工務店の普及拡大

- ① 工務店等の関係者の心理的距離が縮小した。
- ② 販促ツールを使用し、工務店の戸別訪問を行った結果、約30社興味を示した。

(5) 課題

① 製材品の品質や量の確保

小学校建設などの大規模な公共施設整備の際に発注者が求める製材品の品質や量を確保することができない。

② 地域材活用住宅のプロモーションの強化

住宅の建築意欲が旺盛な20代後半～40歳の層の消費者については、特に木に対するこだわりが無いことから、これらの層に向けたPRが必要。

#### 4 考察

製材品の品質や量など一朝一夕では解決できない課題については、各製材所・プレカット工場等の協業化やJ A Sの機械等級区分の取得などを目指して、各団体と調整していく必要がある。

また、地域材活用住宅のプロモーション強化に向けて、地域材活用住宅見学バスツアー及び各種セミナーの開催など、今後も積極的に取り組んでいきたい。